

盗聴法の拡大と司法取引の導入を含む 刑事訴訟法等の一括改正法案の廃案を求める決議

1 本年3月13日、国会に提出された盗聴法（通信傍受法）の拡大・要件緩和と「司法取引」（「証拠収集等への協力及び訴追に関する合意制度」）の導入などを内容とする刑事訴訟法等の一括改正法案は、9月25日、参議院法務委員会で継続審査に付された。

2 当初、政府・与党は、法制審議会「新時代の刑事司法制度特別部会」で日弁連から派遣された委員を含めた全員一致の答申や「可視化法案」と喧伝されていたことを背景に僅か10時間程度の審議時間で衆議院を通過させて15年通常国会の序盤で成立させることを目論んでいた。

しかし、冤罪被害者、冤罪被害者を支援してきた市民団体、刑事法学者、自由法曹団を含む法律家団体などが相次いで法案の危険性を訴え、これらの声に応ずるように18の弁護士会会長の反対の共同声明、4単位弁護士会の反対の声明が発表され、衆議院法務委員会では法案の徹底審議が余儀なくされた。

その結果、衆議院法務委員会では、「可視化」、「司法取引」、「証拠開示その他」、「盗聴法」の4分野に分け、参考人質疑を含み総計68時間の審議が行われることとなった。

審議の過程において、法案の問題点と危険性は次々に明らかにされ、民主党は、盗聴法について、対象犯罪の拡大を詐欺・電子計算機使用詐欺・恐喝に留め、立会人を不要とする制度設計は認めず、司法取引については、導入を見送るとする修正案を発表するまでに至った。

ところが、自民・公明・民主・維新の4党で行われた「密室」での修正協議は、盗聴法の対象犯罪の拡大・立会人を不要とする暗号による盗聴の実施や、司法取引の導入はそのままに、盗聴法については、盗聴を実施された被疑者に対する不服申立ができることの通知の追加、司法取引については、弁護人の常時関与と検察官の考慮事項に事件の関連性を追加する等の微修正に止まるものであった。

本年8月7日、修正協議を反映した法案が衆議院で可決され、参議院に送付されたものの、参議院法務委員会では、法案の趣旨説明が行われたのみに止まり、具体的な審議に入ることなく継続審査に付された。

3 今秋開催見込みの臨時国会において、審議の対象となるのは、4党協議により修正された法案であるが、施された修正は当初の政府提出法案が抱えていた盗聴・司法取引の危険性を払拭するものではない。

第1に、盗聴の対象犯罪の大幅拡大と立会人を不要とする暗号による傍受の実施は、捜査機関による盗聴の濫用を招き、犯罪とは無関係の一般市民の通信の秘密・プライバシーを侵害する機会を飛躍的に増大させるという危険性がある。不服申立権があることを通知したところで、かかる危険性を何ら払拭するものではない。

第2に、法案が導入しようとする「司法取引」が、他人の犯罪を告白することで自己の刑責を軽くするという制度である以上、無実の者を引っ張り込み冤罪を作出するという類型的な危険性を孕んでいる。他人の犯罪について何ら情報を持たない弁護人が常時関与し、検察官が犯罪の関連性を考慮したからといって無実の者を引っ張り込むことによって発生

する冤罪の危険性は拭い去れていない。

第3に、法案に含まれているビデオリンク方式による証人尋問の拡大、証人の住所・氏名の秘匿などは、刑事裁判の原則である公開主義・直接主義に関わる重大な改正点にもかかわらず、衆議院法務委員会では審議の時間はほとんど確保されず、議論がなされないまま参議院に送付されている点も見過ごされてはならない。

第4に、取調過程の録音・録画の対象事件がごく一部に限られた上、濫用を許しかねない広汎な例外規定が設けられているという問題点は何ら変わっていない。

4 国民に対する監視と密告を奨励する盗聴法の拡大と司法取引の導入は、安倍政権が進める「戦争をする国づくり」における治安立法にあたることは明らかである。

戦争法制を強行採決した安倍政権の描く絵図の完成を阻止するためにも、法案を臨時国会で廃案に追い込むことが不可欠である。

5 廃案にはならなかったとはいえ、通常国会での法案の成立を阻止したことは、私たちの運動の大きな成果である。法案の危険な内容を明らかにすればするほど、多数を頼んでの成立は困難になる。このことにまず確信を持つ。国会審議の経過はまた、法制審答申と一括法案が、市民的な基盤に基づくものではないことを示している。われわれは、政府・法務省及び日弁連など法制審に関わった関係者は、あらためて冤罪の根絶という原点に立ち返って、法案を撤回し、全面的な見直しに着手する立場に立つことを求めるものである。

自由法曹団は、冤罪被害者、市民団体、さらには「戦争をする国づくり」に反対する多くの国民と連帯して、今秋の臨時国会で刑事訴訟法等の一括改正法案の廃案をかちとるために尽力する。

2015年 10月19日

自由法曹団 宮城・蔵王総会